平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	提携講座(ボランティア概論)(Introduction to volunteer)			**授業コード**	A032101
担当教員名	高見 大介			**科目ナンバリングコード**	A20211
配当学年	1年(2015年度入学生のみ)	**開講期**	前期		
必修・選択区分	選択	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	ボランティアについて深く考え、地域社会の問題・課題を自分の事とする心構えが必要です。				
受講心得	大分県に興味を持ち地域課題に主体的に取り組み、自分自身が出来る事を考える。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書	WAVOC発大学生のためのボランティア入門講座　著者　西尾雄志　発行　早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター ボランティアという人間関係　著者　原田隆司　発行　世界思想社				
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、人間力概論、産学一致の勧め、提携講座(グローバルコミュニティ演習)など				

授業の目的	ボランティア活動は学生の皆さんや社会にとって、どのような意義や目的があるでしょうか。本科目では、学生ボランティア活動の事例や歴史などを学ぶことを通じて、主体的な地域社会への参画ができるようになることを目的とし、自身の存在意義を感じると共に地域社会でのやりがいを見出すことができるにします。
授業の概要	本科目は日本財団学生ボランティアセンターとの提携により開講する提携講座です。これまでのボランティア活動について学び、社会の問題・課題を自分事にし、これからのボランティア活動に主体的に取り組む事が出来るように学びます。また、これから身に着けるであろう様々な専門知識を社会的に活かすマインドを養い、前向きに主体的に社会に参画できるように授業を進めます

〇授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 ： オリエンテーション 〇授業の目的・内容・進め方・成績評価等について説明	
第 2 週 ： ボランティアについて① ボランティアとは何かについて概念的に紐解きます。概念的に膨らみ続けるボランティアを、ボランティア三原則から考えます	ボランティア三原則
第 3 週 ： ボランティアについて② ボランティアはいったい何が出来るのか？を事例を基に考えます。阪神淡路大震災・東日本大震災から考えます。	阪神淡路大震災 東日本大震災 災害ボランティア
第 4 週 ： 学生ボランティアについて① 学生ボランティアの歴史を学びます。セツルメント・ワークキャンプ・ボランティアなど様々な形で社会問題にコミットした学生の事例から現代を考えます。	セツルメント ワークキャンプ 学生ボランティア
第 5 週 ： 学生ボランティアについて② ボランティアと学習の関係性について。学習が先か？ボランティアが先か？学生ボランティアがどの様に活躍するのかを考えます。	ボランティア学習
第 6 週 ： 学生ボランティアについて③ 学生ボランティアの持つ強み・弱みについて考えます。強みと弱みを深く理解する事が意味のある活動への近道である事を知ります。	学生ボランティア団体の活動事例
第 7 週 ： 社会とボランティア	

様々な活動を比較し、検討します。行政・企業等の様々な団体の活動から社会と活動の関係性とそれぞれの立ち位置を考えます。	NPO CSR
第 8 週 ： ボランティアの可能性① マイクロクレジット・ムハマド、ユヌスのやり方から自分たちの活動を考えます。（キーワード：グラミン銀行）	ムハマド・ユヌス
第 9 週 ： ボランティアの可能性② ボランティアの留意点、公平性と流行。社会問題を経済的、文化的の二つの側面から見つめてボランティアの可能性を探ります。	
第10週： 大分県の社会問題① 私たちの暮らす大分県内の社会問題について考えます。これまでの県内のボランティア活動を学びます。	
第11週： 大分県の社会問題② 現在の大分県の社会問題を探し出します。また、自分たちに何が出来るかを考えます。	
第12週： ボランティアに参加するには① 具体的な行動について考えます。学生がすぐに参加できる活動、県内ボランティア活動を模索します。	
第13週： ボランティアに参加するには② 具体的な行動について考えます。学生がすぐに参加できる活動、ワークキャンプについて考えます。	
第14週： 大学生ボランティアリーダーのためのマネジメント論 広報戦略・リーダー像・動員の方法・メンバーとの関係性を学び、今後の大学生生活にボランティアの要素を入れ込みます。	
第15週： まとめ（ふりかえり） なぜ、大学生がボランティアなのか？大学生の使命感と行動力について考え、レポートにまとめます。また将来的に地域社会に参画する具体的な方法を言語化します	今回の授業での活動を総合的にまとめ、総括する
第16週：	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅱ：地域での体験交流活動を教育内容に含む科目	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①地域活動に主体的に参加し、自らの活動の意義を見出すことができる ②地域の課題と自らの持てる力を直結し、積極的に活動を行うことができる
【知識・理解】	①ボランティア活動を専門的に理解する ②地域社会の問題・課題を理解する
【技能・表現・コミュニケーション】	①レポートを作成し、自分が理解した事の言語化ができる ②地元住民の方々の話を聞き、自分の意見を持つことができる
【思考・判断・創造】	リテラシーのプロセス（情報分析→課題発見→構想→活動）を獲得し、そのスキルを活用できる

〇成績評価基準（合計100点）	合計欄	100点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		30点	20点
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		20点	
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	毎回の授業の終わりにレポートを提出してもらいます。どれだけ講義の内容を理解し、自分の意見が持てたかを重視します。
発表・その他（無形成果）	実際に地域の活動に参加する事を提案します。その中で参加した活動に対するレポートは更に加点します。